

# めぐみ行動日誌 (2016.11.1~12.31)

11月

- 2日 千葉マリスタジアム視察
- 3日 浜松協働学舎 スマイルフェア祭
- 4日 社会福祉法人複泉会評議会
- ★11日 建設消防委員会
- 12日 浜松織物ツアー
- 13日 ERIKOコンサート in 中村家住宅
- 14日 議員ディスカッション in 静岡文化芸術大学
- ★15日 議会改革検討会議、全員協議会 政務活動研究会
- ★17日 行財政改革・大都市調査特別委員会
- 18日 上島小学校学習発表会
- 19日 女性議員を増やす会なないの風県内キャラバン 「HOW TO 女性議員」 in 磐田 浜松介護サポートらねっと定例会
- 20日 社会福祉法人復泉会 地域交流パーティー
- 21日 ザ・サンフェス ~はままつの妊娠・出産・育児をもっと楽しもう!~
- ★22日 本会議、大型スポーツ施設調査特別委員会 遠州綿プロジェクト
- 23日 ママのおしごと応援フェア、くすりと健康フェスタ
- 24日 浜松の福祉を考える会、ひかりライオンズ
- 25日 障害福祉の行方勉強会、学童保育学習会(三島市)
- 25日~28日 はままつシャツ部展示販売会
- 26日 小1の壁を乗り越える~今知っておきたい、浜松の学童保育の話~
- 27日 不登校生のための進学相談会
- ★30日 全員協議会、本会議(代表質問)



12月

- ★1日 本会議(一般質問)\*めぐみ一般質問
- ★2日 本会議(一般質問)
- 3日 遠州綿 ぬくもり市、浜松市緑化推進センター(見学) あなたと夜と音楽と♪けんぼうカフェ
- 4日 イタヤマチマルシェ
- ★5日 建設消防委員会、子どもの貧困ワークショップ(傍聴)
- 6日 はままつシャツ部
- 9日 防災福祉健康産業フェア
- 10日 Love PEACE&Freedom ライブ&トークセッション
- 11日 和地山公園集会所竣工式、あこがれ農業繁農緑祭 不登校性のための相談会
- ★12日 議会改革検討会議、行財政改革・大都市制度調査特別委員会
- ★13日 全員協議会、本会議、政務活動研究会
- 15日 あいゆうネット交流会 遠州綿プロジェクト
- ★16日 大型スポーツ施設調査特別委員会 市内視察
- 17日 ひかりライオンズクリスマス例会
- 18日 静岡政策研究会(静岡市)
- ★19日 大型スポーツ施設調査特別委員会
- 20日 浜松の福祉を考える会
- 21日 社会福祉法人複泉会評議会
- 22日 はじめの一步実行委員会
- 24日 教育機会確保法成立 これからのことを話そう(東京)
- 26日 浜松総合教育会議(傍聴)インクルージョン研究会

★印は議会活動  
 ■は調査活動  
 ○印はその他

## 2月議会予定 (2017.2.20~3.24)

- 2月 20日 本会議(初日)
- 21日 建設消防委員会 (28年度2月補正予算などを審議)
- 27日 本会議(29年度当初予算、施政方針発表など)
- 3月 8日 本会議(代表質問)
- 9日 本会議(一般質問)
- 10日 本会議(一般質問)
- 13日 建設消防委員会(29年度当初予算など審議)
- 14日 建設消防委員会(29年度当初予算など審議)
- 24日 本会議(最終日、採決)

本会議、委員会ともに、インターネット中継をしています。ぜひ、市政のチェックしてみてくださいね。



元我孫子市長 福嶋浩彦さんと(一番左)

### 編集後記

原則、行政が提供するサービスは、窓口で申請しないと受けることができない。でも、自分の困っていることを明確に答えられる人が少ないのが現実だ。自分にあつたサービスがどこにあるのかわからないため、結局サービス受けないまま、問題が深刻化していく。だから、庁内に窓口をつくるだけではダメだ。職員だけでなく、市民の中からも困っている方に寄り添い、課題を発見できる人たちを増やし、ネットワークを繋ぎ、助け合える街にしていきたい。

浜松市政向上委員会 控室  
 (浜松市役所7階北)

TEL/053-457-2479

# 浜松 Happy 化計画 レポート Part2 Happy plan for hamamatsu



## 2017年もどうぞよろしくお祈りします。

11月議会では、年に1回の「一般質問」で、市長や担当部長に市政に対する質問をしました。今回の質問のテーマは、「繋ぐ」です。生きづらさを抱えているこどもたちの中学卒業後をどう繋いでいくか。教育と福祉をどう繋いでいくか。安全を繋いでいくために、浜岡の原子力発電災害の避難受け入れをどうしていくか。公共施設を包括的に管理する指定管理者制度、これからどうしていくか。日々、様々な方の声を聞いている中で、制度や仕組みの隙間でぶつ切り切れてしまっているために、解決しないことから、未来に繋ぐために今回の質問となりました。

11月議会 一般質問 報告

## 今回の質問のテーマは「繋ぐ」

- 1 「世代を繋ぐ」「教育と地域を繋ぐ」 「教育と福祉を繋ぐ」 高校生世代へのアプローチと切れ目のない子ども・若者支援
- 2 「障害者と事業者、学校を繋ぐ」 障害者差別解消法と合理的配慮
- 3 「安全を繋ぐ」 浜岡地域原子力災害の避難受け入れ体制
- 4 「公共と民を繋ぐ」指定管理者制度の課題と見直し
- 5 「将来に繋ぐ」経験と専門性のある職員の配置

### 質問の趣旨

これまで私たちは、行財政改革の成果を、短期的に結果がでるもの、具体的に確認できるもの、直接的な成果が出るものを求めすぎてきていなかったでしょうか。教育や福祉は、結果が出るのに時間がかかりますし、数量で表すのは難しいものです。

例えば、図書館でベストセラーをたくさん並べておけば、貸し出し人数、冊数は増加しますが、それが市民の知る自由を守り、くらしやまちづくりに役立つことなのでしょうか。

長い目で見た効果、プロセス、波及的な効果に重きを置くことが今後ますます大事になってくると思います。高校生世代へのアプローチ、支援もまさに結果はずっと後から出てきます。だからこそ、今戦略的にやらなくてはならないのです。

「官から民へ、民ができることは民に」という単純な「小さな政府」志向ではなく、官と民、官と市民が信頼のパートナーシップを組み、次の世代に繋いでいきたいものです。

浜松市議会議員 中区選出 鈴木めぐみ



質問時に着た着物は、細い糸を高密度で織った浜松産の綿織物。網のような張り、風合い、肌ざわりがある。

### 編集・発行 めぐみ応援・浜松市政向上委員会

浜松市東区半田山 2-5-10 TEL/053-431-1511  
 MAIL/megu@megumi-happy.net FAX/053-544-5451  
 HP/www.megumi-happy.net

### 鈴木めぐみ自宅

浜松市中区曳馬 6-5-17  
 TEL/090-8672-8534



めぐみ 一般質問

# 切れ目のない子ども・若者支援を！ 学習障害のある子どもにICT活用を！

めぐみ質問

字を書くことが困難、時間の把握が困難、優先順位をつけることが苦手、同時に処理をすることが苦手、手先が不器用などの特徴がある子どもさんがいる。それらの困難さは、iPadなどのタブレット利用で補うことができる。例えば、目で見て一目でわかるタイマーのアプリを使うと、時間の把握ができるようになる。しかし、学校現場では「周りの子の理解を得るのが難しい。目立つことで本人が辛い思いをするのでは？」とのタブ

レット端末導入にはいたっていない。一方、困難を抱える子どもは配慮の無い環境の中で、自信をなくしていき、みんなが当たり前でできることが出来ないことで、惨めな思いをしたり、いじめの的になったりする中で、トラウマを抱えさらに自信を無くすという悪循環になる。そこで、学校内での合理的配慮として、学習障害の児童・生徒への個別支援としてタブレット端末などのICT活用を認めていく考えはあるか。

答弁要旨・花井教育長

特別な支援が必要な児童・生徒に対して、障害の状態や特性等に応じてICTを活用することは、各教科や自立活動等の指導において、大変有用だ。発達障害児や特別な支援を必要とす

る児童・生徒の保護者からタブレットなどのICT機器の利用の申し出があれば、対応していきたいと考えている。

めぐみ質問

発達障害の高校生年代向けの市立の通級指導教室設置は？

答弁要旨・花井教育長

高校学校段階における発達支援教育の充実の重要性は認識しているが、平成30年度以降の県立高校への通級指導教室の取り組みを注視していく。

めぐみ 感想

教育委員会の答弁にはがっかり。将来を担っていく子どもたちの成長は待ってくれません。県立の高校に行っている子どもは約7割で、残り3割の子どもは、私立高校、通信制、また進学しない子どもたちです。みな浜松の子どもです。子ども・子育て支援の充実に伴って、生きづらさを感じている、課題を抱えている子どもや保護者たちに対して中学在

学中までは何らかの支援の繋がりができてくるようになりました。しかし、せっかく、幼小中と切り目がない支援をし、なんらかの支援が必要だと中学で認識されていても、中学卒業後はぶつ切りと繋がりが切れてしまいます。諦めずにこれからも訴えていきます。

数字は語る！

810名

通常級に在籍する特別な支援を必要とする中学生(平成27年度)

52名

中学卒業後、進学も就職もしなかった生徒数(平成27年度)



「絵カードタイマー」時間の把握が難しい人のタイムエイドとして使用に適している。

めぐみ 一般質問

# 浜岡原発災害時の避難受け入れ体制は？

めぐみ質問

原発災害の避難者をどのように受け入れていくか。

浜岡原子力発電所が単独で事故が起きた場合、御前崎市全域の市民(人口3万3000人)が本市に避難することになっている。避難者をどのように避難所へ受け入れていくのか。

答弁要旨・山下危機管理監

住民避難については自家用車での移動が基本。避難所の駐車スペースが十分確保できないので、検査場所から直接避難所に行くのではなく、駐車場を兼ねた「避難経由所」を設け、多数の避難者を避難所に振り分け、のり合わせて避難所に向かっていただく。避難所は、国や県の施設、高校・大学、市の協働センターの体育館の約110カ所をリストアップ。御前崎市の広域避難計画の公表にあわせて、本市の受け入れ体制を公表していく。

めぐみ 感想

3万人受け入れ予定の屋外の避難経由所の暑さ、寒さ、雨対策は浜松市の役割。果たしてスムーズにできるのか。単独災害であっても現実的な避難計画とは言えない。今後、大地震との

複合災害の場合の浜松市民の「屋内退避、一時移転」について課題としてあがっている。現実的な避難計画ができない限り、浜岡原発の再稼働は非現実的だ。

めぐみ 一般質問

# 指定管理者制度の課題と見直し

「指定管理者制度」とは、それまで地方公共団体やその外郭団体に限定していた公の施設の管理・運営を、株式会社をはじめとした営利企業・財団法人・NPO法人・市民グループなど法人その他の団体に包括的に代行させることができる(行政処分であり委託ではない)制度のこと。

めぐみ質問

スポーツや文化施設などの公共施設に指定管理者制度が導入されて10年以上経ったが、課題は何か。

答弁要旨・鈴木市長

新規参入や応募件数が少ないなど競争原理が働いていないことが課題のひとつ。今後開催を予定している浜松市官民連携プラットフォームで、積極的に公募施設の情報提供を行い、多くの応募がされるよう、努めていく。

めぐみ 感想

指定管理者制度の課題認識について。

現在、浜松市は複数施設をまとめたの公募を進めているが、大きな企業にとってはスケールメリットがあるが、地域の団体やNPOは大きすぎると手におえず、参入が難しくなる。天竜壬生ホールが途中で引き上げという件があり、指定管理料が前払いから、後払いとなった。NPO法人などは、内部留保はほとんどないところが多く、ますます参入は難しくなる。どの施設も同じようなルールでいいのか。また、複数

手があがる必要があるからと、参入壁を少しでも低くし、参加資格や条件を縮小、緩和するようになりはしないかと不安が残る。障害者施設など施設によっては、指定管理者制度ではなく、直営に戻す施設もあるのではないかと。決算審議で指摘した「事業報告書の黒塗り」は、人件費などを少しでも下げるために情報公開で報告書を手にいれ、従前より安い金額で提案することを防ぐためではないか。「秘密にすべき民間ノウハウ」「企業秘密」ではなく、「金額、コスト」で勝負するのがまかり通っているのではないのかとの疑問が残る。

答弁がかみ合わず。次回、リベンジじゃ。